

2023年度 学校評価報告書（アクションプラン 兼 学校自己評価）

教育理念	豊かな教養と純真な人間愛をもって、社会に貢献できる女性の育成
学校経営方針	1. 育英誓願を柱とした人間教育 2. 自立女子の育成 3. 組織力を生かした学校運営と教育改善 4. 生徒の安全・安全の保証

アクションプラン							学校自己評価		
							A：達成度が高い B：概ね達成している C：課題を残している D：速やかな改善が必要である		
分掌・委員会	項目	目標・課題	アクション	評価方法（定量的）	優先度 （高・中・低）	完了目標年度	今年度評価 （A～D）	今年度の成果・到達度	次年度に向けての課題とアクション
入試広報部	受験生・入学生の確保	・中学、高校共に各コースで定員充足率100%越えを目差す。	・学外関連機関及び学習塾などからヒヤリングし情報収集・分析を行う。 ・各コースの特徴を明確に伝え、受験者数を増加させる。 ・塾訪問機会を増加させ、生徒(児童)1人を出願、受験、入学となるように追いかけていく。 ・塾との連携を強め、特定の塾対象のプレテスト、説明会、学校見学会等を実施する。 ・個別指導塾への訪問頻度を上げる。	出願者数、受験者数、入学者数の過年度比較、推移を確認する。	高	2023年度	B	・過年度比較のデータを用いて、定期的に振り返りを行い、行事計画を見直し策定した。 ・高校コース制導入後2年が経ち、コース別の教育内容や進路についての違いが明確になったため、受験者数の増加につながった。特に今年度入試は立命館コースの専願受験者と指定校推薦での受験者が増加した。 ・塾訪問について、訪問機会を増やすだけでなく、訪問後の報告・相談を密に行い、時期ごとの対策を練ることができた。	・中学入試の受験者を少しでも増やすための方策が必要。特に自己推薦入試での受験者数増加に注力したい。 ・中学受験希望者に対して、1人1人へのアプローチを密にするため、個別の情報をデータ化して共有する。 ・塾の先生方とは入学前だけでなく、入学後も頻繁に情報共有を行い、フォローアップする。
入試広報部	入試業務の成功	・業務をできるだけ簡素化し、ミスのない入試業務の行う。	・入試に関する物品や会場等の準備を行う。 ・入試当日の人員配置や運営を行う。 ・受験生の答案や成績処理に関わる運営を行う。	入試当日のトラブルの有無、問い合わせ件数を確認する。	高	2023年度	A	・入試業務について、概ね業務を遂行することができた。 ・受験生及び塾・中学校からの問い合わせに対して、適切に対応することができた。	・入試業務における統括と各担当の責任者との連携をはかるためのシステム作り。 ・プレテスト・入試時の成績処理における確認システムの構築。 ・外部からの問い合わせ対応について迅速化を図る。
入試広報部	効果的な広報活動	・本校の教育活動の認知度を高める。 ・MYPの授業や探究的な授業の認知度を高める。 ・学校の魅力を効果的に発信する。	・校外での広報活動の頻度強化し、奈良県のみならず、大阪及び京都へも広報活動を広げる。 ・MYPの授業や探究的な授業の見学できる機会をつくり、保護者、生徒（児童）及び塾関係者の認知度を高める。 ・生徒実行委員会と連携し、オープンスクール等の行事を通し学校の魅力を外部へ発信する。	オープンスクール等の入試広報イベント参加者数の過年度比較、過回比較、推移を確認する。	高	2023年度	B	・今年度のオープンスクール等における授業体験は、中学はシナジータイム、高校は英語を実施。 ・ホームページ、SNS等のインターネットを利用したツールを用いた情報発信について、入試関連行事実行委員がInstagramの更新を頻繁に行ってくれた。	・次年度も引き続き、行事のコンセプトごとに発表内容を変える。 ・日々の教育活動について、定期的に生徒・教員から教育活動に関わる情報や資料を収集する。 ・次年度はニーズが高い授業体験の回数を増やす。 ・校内だけでなく、校外イベントも精力的に実施。 ・SNSの更新頻度は低いいため、専門的かつ担当者を確保する。
渉外担当部	効果的な渉外活動	・本校独自の取り組みや教育内容を外部に発信し、学校の認知度と魅力を広める	・学習塾、中学校を訪問し、学校の魅力を伝える ・塾関係者を対象とした学校説明会を実施する	・年間の塾・中学校訪問件数を確認する ・塾対象の説明会参加者人数を過年度比較する	高	2023年度	B	・塾対象のプレテスト、説明会、学校見学会、授業体験会等を実施。 ・7月半ばと8月末に中学校訪問を行い、指定校推薦や入試要項に関する説明を実施。	・塾対象学校説明会への参加者数を増やすため、新規開拓を行う必要があるのではないか。 ・中学校訪問を1年に数回実施する事を検討する。特に、出願者の多い中学校について訪問の機会を増やす。
MYP推進委員会	組織	再認定に向けての課題改善を組織的に行う。	委員会での業務改善案を考え、学校運営に反映させる。	学校教育アンケートの評価を見て重点項目が改善されたかを確認する。	高	完了するものではないと考える。	C	今年度はATLスキルを教科・行事の中でどう生徒たちに浸透させるかを、教員一人一人が折に触れて試行錯誤しながら実践しようとした。昨年度制作したスキル札も、教員の使用には役立ったようだ。しかし、こちらが意図した通りには生徒たちがスキルを使用したとはいいがたく、こちらの思いと生徒の実態を鑑みると、まだまだやるべきことが多いといえる。	ATLスキルについては引き続き、委員会等で活発な論議をしながら発展させていく。探究の問いを生徒と共に深められる授業実践を3学期に委員会で取り上げたが、こちらも次年度更に学校全体で取り組むべきテーマであると認識している。
MYP推進委員会	教育内容	各教科の連携をさらに深められるよう縦・横の連携を深める。	年間の授業計画などを組織で活用する。 重点項目を設定し、委員会のメンバーで計画・実行する。	学校教育アンケートの評価を見て重点項目が改善されたかを確認する。	高	完了するものではないと考える。	C	年間の授業計画は、そもそも立てることが難しいと感じた。教員の入れ替わりの中、4月・5月に年間の授業を見通すことが困難だ。今年度は年度末に振り返りの形で授業計画を回収しようとした。	次年度は再認定に向けて、教員のスキルと高め、実際とあまり乖離のないようにいかに書類を整えていけるか考える。1学期から多くの研修や、教科会を持っていただくのが良いのではないか。
MYP推進委員会	保護者連携	保護者等にIBの活動・教育内容を理解を深めてもらう。	通信の発行・保護者会などでの説明	学校教育アンケートの評価を見て重点項目が改善されたかを確認する。	高	完了するものではないと考える。	B	IB通信をできるだけ生徒の活動に合わせタイムリーに発行できるように心掛けた。写真を多く紙面に使い、学年ごとに情報が偏らないように留意した。また、今年度は2学期の保護者会にも校外での奉仕活動についての説明を行った。	引き続き通信や保護者会は行っていく。それ以上に何か訴求力のあることはあるか、他校の実践などを学びながら継続する。
高校改革推進委員会	保護者連携	保護者等に、高校での授業の様子や評価方法について理解をしてもらう。	説明会の実施	学校評価アンケートの内容より、意見の集約	高	2023年度（ただし、2023年度以降も継続して実施予定）	B	年度当初に、保護者に対して説明会を実施した。一度では理解することが難しいことであるため、三者面談等で担任より説明を行うことで保護者への理解を高めていった。	引き続き、年度当初に保護者への説明会を行う。

2023年度 学校評価報告書（アクションプラン 兼 学校自己評価）

教育理念	豊かな教養と純真な人間愛をもって、社会に貢献できる女性の育成
学校経営方針	1. 育英誓願を柱とした人間教育 2. 自立女子の育成 3. 組織力を生かした学校運営と教育改善 4. 生徒の安全・安全の保証

アクションプラン							学校自己評価		
							A：達成度が高い B：概ね達成している C：課題を残している D：速やかな改善が必要である		
分掌・委員会	項目	目標・課題	アクション	評価方法（定量的）	優先度（高・中・低）	完了目標年度	今年度評価（A～D）	今年度の成果・到達度	次年度に向けての課題とアクション
高校改革推進委員会	教育内容	生徒の授業への取り組み方や振り返りなど、学習の進め方の情報を発信する。	HR等を活用しての説明会の実施 日々の担任や教科担当者からの説明	学期ごとの授業評価	高	2023年度（ただし、2023年度以降も継続して実施予定）	B	年度当初に生徒に対してノ説明会を実施した。また日々のHR内で担任からの声かけで学習習慣の管理ができるようになる生徒が増えてきた。教科担当者からも、課題に向けての取り組みや振り返りについての説明を何度も行うことで、学習への取り組み方を生徒が理解していった。	教科担当者によって、評価や授業の進め方に差があり、周知徹底ができない部分があった。教科内で情報共有ができる時間を作るエラーが起きにくい分かりやすいシステム作り
高校改革推進委員会	教育改善	学習や評価について、現状の問題点の確認・改善案の提案	週1回の会議で、現状の問題点を確認し改善案を出す。教員対象に研修会を行う	学期ごとの授業評価	高	2023年度（ただし、2023年度以降も継続して実施予定）	A	教員向けに評価法や授業方法について研修会を実施した。生徒が学習に取り組みやすいシステムを構築した。（学習調整期間・Challenge Day）	コースごとの評価課題のレベル設定を行う教科ごとのルーブリックの再検討 評価法について年間の中で教員研修を何度か行い、周知徹底をする
ICT委員会	効率化	業務のスリム化をはかる	要るもの要らないものをICT委員中心に精査する。	10万円ほど減らす。	中	2024年2月	B	Metamojiアプリの停止、ブリタニカオンラインの廃止で、生徒一人当たり3500円、学校契約で110,000円の削減を行った。効率化として、具体的な数値として、評価できなかつた。	前半は、教育推進というより、電気工務店のような活動であった。ICTの運営作業と教育活動の線引きができれば、効率化を検証でき、かつ、教育推進ができる。
生徒指導部	自立女子の育成	私（生徒）からの挨拶 笑顔で挨拶	始業式・終業式で生徒への啓発。 教職員間でも気持ちの良い挨拶を意識する。		中	今年度末	B	コロナの5類引下げにより、改善傾向にはあるが、全員が「笑顔で挨拶」という目標の達成には至っていない。	来校者への挨拶、朝の挨拶の励行が継続課題である。日々の生徒への声かけを続けていく。
生徒指導部	育西ブランドの確立	美しい身だしなみ 教室環境の整備	身だしなみキャンペーンの実施。 毎月の大掃除。	リボン・ネクタイ忘れの把握。 遅刻生徒数の把握。	中	今年度末	B	多くの生徒は制服を正しく着用できている。スカート丈、リボンを緩めての着用については継続して指導を続ける。 バスの延着による公遅セロには課題が残る。	生活委員や美化委員の活性化を進める。 奈良交通との連携を強化する。
企画広報部	学校情報の発信	積極的な情報発信 学校新聞などにより、積極的に情報を発信していく。	学期ごとの学校新聞の発行 積極的な生徒の参画を促す	発行の確認 参画した生徒数	中	今年度末	B	スムーズに発行することができた。例年と比べて記事内容の見直しを行った。生徒たちの記事を増やすことができた。	引き続き、スムーズな新聞発行と、記事内容の見直しをする必要がある。
企画広報部	行事授業等の公開	学校行事や授業を保護者や場合によっては地域への公開を行う	保護者や地域の人に可能な限り広報して、本校の活動を知ってもらおう。 コロナ前の行事に戻しつつ、保護者と地域と協力し、より良い行事を実施していく。	学校行事や授業参観などの参加人数の推移を確認	高	今年度末	B	コロナの資源が解除され、たくさんの保護者の方に参加していただけた。コロナ前よりも度の行事も来校者が増えている。	各行事の形態を再考するべき。コロナ前に戻すのか、新たな形で実施するのかが検討しなければならない。
企画広報部	育西会との連携	保護者との連携を密にして学校への理解を深めてもらう	役員会・委員会・保護者会を通じて、相互理解をはかり、日々の教育活動に生かす。	行事・保護者説明会等の参加人数の推移	高	今年度末	B	書く行事の際は、育西会としっかり連携をとることができた。また、説明会等についてはオンラインと対面のすみわけをできた。オンラインの方が参加率が高い。	引き続き、事務と連携し育西会と密に連絡を取り合っていく。説明会についても継続してICTを活用していく。
教務部	授業デザイン	探究を授業に取り入れた授業デザインの構築。新課程システムの構築。	授業設計や授業構築の内容を共有し、振り返りと改善を繰り返す。新課程の授業の形と評価方法の安定化を目指す。	授業に関しては、授業アンケート	高	今年度末	B	授業アンケート実施後には、結果をもとに各教科で課題となっている点について改善方法を検討する時間をもった。中学・高校ともに、互いに授業見学をすることで研修をすることを継続する必要がある。	高校の3学年が新課程になるこの機会に、授業アンケートの項目についても再検討が必要と考える。各教科において継続的に授業設計の方法や授業方法について共有が必要である。
教務部	公開授業研究会	日々の授業を外部の教育関係者に公開する。	年間の授業のテーマを掲げる。1・2学期の教科内研究授業。外部への案内と集客。	アンケート実施	高	今年度末	B	外部から多くの方々に参加いただき、生徒自身が課題を見つけ取り組んでいく姿やいきいきと発表している姿に良い評価をいただいた。また、授業者の生徒への問い方や探究的な授業の構築に外部の方の関心度が高かった。	授業の構築の仕方など、日ごろから教科内で共有することができればよいと考える。学内の教科内研究授業と公開研究授業の担当者を早くから計画的に決め、日頃から意見交換等できると、全体の授業力向上につながるかと考える。
教務部	成績処理	成績システムの円滑化	高校改革に沿った成績処理システムに対応する。	学年末の振り返り	高	今年度末	B	高校の2学年が新課程となり、新旧が入り混じった成績処理になった。また、評価方法が年間になつて成績処理が昨年と変更になり、教員間の作業の共有がより必要になり、時間を要した。	高校の3学年が新課程となるので、成績処理方法を再度整理し、より円滑にかつ正確に処理できるように慎重に進めていきたい。

2023年度 学校評価報告書（アクションプラン 兼 学校自己評価）

教育理念	豊かな教養と純真な人間愛をもって、社会に貢献できる女性の育成
学校経営方針	1. 育英誓願を柱とした人間教育 2. 自立女子の育成 3. 組織力を生かした学校運営と教育改善 4. 生徒の安全・安全の保証

アクションプラン							学校自己評価		
							A：達成度が高い B：概ね達成している C：課題を残している D：速やかな改善が必要である		
分掌・委員会	項目	目標・課題	アクション	評価方法（定量的）	優先度（高・中・低）	完了目標年度	今年度評価（A～D）	今年度の成果・到達度	次年度に向けての課題とアクション
進路指導部	中学および高1における基礎学力の充実	積み重ねの教科である英語・数学に関し、学力推移調査の全国偏差値の平均を特設コースで45以上、進研模試の全国偏差値の平均をⅠ類で50以上、Ⅱ類で55以上を目指す	集団としての成績の推移のモニタリング 各個人の成績の推移のモニタリング	各種アセスメントの結果	高	今年度末	B	目標とする数値には届かなかったが、定期的にモニタリングすることができた。	補習や補充の体制、課題の出し方など一度見直しが必要であるとする。
進路指導部	国公立大学進学者を増やす	Ⅱ類卒業生の50%以上が国公立大学へ進学	何年生のどの時期にどのような施策を打つかについて、3年間の流れを作る	国公立大学進学者数	高	2024年度	C	目標には大きく届かなかった。新規に様々な施策にチャレンジした。	様々なチャレンジに連続のロジックをつけて継続する必要がある。
進路指導部	進路に関する情報発信の強化	全教員および全生徒が進路情報にアクセスする手段を整備し、生徒が主体的に進路に関わる行動を起こす。	様々なアセスメントの結果の利用 学外からもたらされる情報の共有	校内で共有される記事の数	中	今年度末	B	入試・模試のデータにアクセスする環境を整備することはできた。	周知と活用が今後の課題となる。
高大連携部	指定校推薦	学ぶ対象を明確に持ち、学びへの意欲・熱意を持った生徒の育成	①日常の学習の活性化 ②日常の学びに、進路を意識した取り組みを入れる。	各学期後の授業アンケート	高	2025年度	C	チャレンジデイを活用し、日々の学習課題以外の取り組み（大学訪問、企業訪問、外部模試準備など）を行う生徒が複数いた。	チャレンジデイの活用を自身の学びに生かすよう啓蒙するとともに、学びの内容の精査も行っていく。
高大連携部	協定大学との連携	現状より連携を強化する。	大学訪問企画・運営 大学から案内される行事への生徒の積極的参加	実施後のアンケート	高	2024年度	B	提携を結んでいる大学（関西大学・京都女子大学・武庫川女子大学・近畿大学）へのキャンパスツアーを実施した。中学生へのプログラミング講座を京都女子大学の先生に実施していただいた。関西大学のオンライン講義に5名の生徒が参加、単発の対面講義に複数名の生徒が参加した。	今年度キャンパスツアーを企画した大学への訪問は継続する。それに加え、近隣の畿央大学・帝塚山大学の学部説明会を企画する予定である。
立命館コース担当部	理系誘導	立命館コースにおける理系進学者の数を40%まで増やす。	短期的には、理系女子の社会的なニーズを保護者・生徒に周知する。 「空間共有システム」を有効利用し、中学を含む早い学年から理系（特に理工学部）への興味関心を高める	理系学部進学者35%。及び理工学部への進学者3名以上	高	理工学部への進学者数については今年度末	B	理系学部進学者数の割合は34.5%で、理工学部進学者は4名となり、ほぼ目標を達成することができた。	学部希望調査によると、次年度の3年生の理系学部進学意欲は低い。引き続き、生徒・保護者への啓蒙活動を続けたい。
立命館コース担当部	業務整理	立命館コースの業務の保存	立命館進学にかかわる面談資料・書類・説明会などの資料を整理し、新しく担当した教員の指導指針となるものを体系的に残す	各種資料の保存 進路シラバスの作成	高	今年度末	C	資料の保存に関しては、ほぼ達成することができた。進路に関するデータ保存は多くの部分を進路事務に移管することができた。一方、進路シラバスの作成は進まなかった。	引き続き、進路決定における事務作業の効率化とミスのない業務の推進を目標としたい。進路シラバスは、新課程における進路指導が一通り終える2024年度末に作成を終えたい。
事務部	本校開校40周年記念事業	①小講堂の改装工事 ②生徒用靴箱の入替 ③記念パネルの設置	①什器入替・空調機器更新・照明増設・扉付替え・天壁塗装・床面張替え・カーテン取替え・胸像の台座新調 ②昇降口設置の生徒用靴箱の入替 ③職員室前廊下に記念パネルの設置	夏休み期間内での改修工事の完了ならびに予算管理を徹底する。	高	10月末	A	①8月に完工し、2学期以降の学校行事・授業・講演会・入試広報行事など用途の拡大が可能になった。 ②7月に入替が完了。利便性、景観が向上した。 ③7月に設置完了し、来校者や卒業生から好評を得ている。	今後も丁寧な取り扱いを心がける。
事務部	入試関連業務の効率化	受験生等への連絡のデジタル化を図る	入試業務における受験生への連絡、中学校宛て合否発表をミライコンパスの機能を拡充し、デジタル化を図る。	前年度との合否発表事務コスト削減内容を検証する。	高	今年度末	A	中学校宛ての合否通知を書類郵送からWEB発表に切り替え、大幅に事務コストが削減した。	ミライコンパスの機能を利用し業務の効率化を検討する。
事務部	外部委託先との連携強化	生徒の安全・学校生活の環境の向上を図る	食堂・購買部・清掃業務・警備業務等を依頼している外部委託先との連携を強化し、学校生活の環境を整える。	・食堂メニューや購買部の商品ラインナップを変更し、利用率の向上を検証する。 ・清掃箇所や頻度を見直し、校内美化を検証する。 ・特別警備期間を設定し、安全対策を図る。	高	今年度末	B	①食堂・購買部のラインナップ見直しにより一定の利用率が向上した。 ②清掃業務の区分を整理し、計画的な清掃・保守管理を行った。 ③登下校時の歩行者（生徒）、自転車通学者、送迎車の運転等、リスクの棚卸しを行った。3月に横断歩道、自転車通行帯、減速帯の設置工事を行い、設備面の改善を図った。	③生徒や保護者に校内の通行ルールを周知し、交通安全に対する意識の向上を図る必要がある。

2023年度 学校評価報告書（アクションプラン 兼 学校自己評価）

教育理念	豊かな教養と純真な人間愛をもって、社会に貢献できる女性の育成
学校経営方針	1. 育英誓願を柱とした人間教育 2. 自立女子の育成 3. 組織力を生かした学校運営と教育改善 4. 生徒の安全・安全の保証

アクションプラン							学校自己評価 A：達成度が高い B：概ね達成している C：課題を残している D：速やかな改善が必要である		
分掌・委員会	項目	目標・課題	アクション	評価方法（定量的）	優先度 （高・中・低）	完了目標年度	今年度評価 （A～D）	今年度の成果・到達度	次年度に向けての課題とアクション
組織運営	コンプライアンス	教職員の時代に合った社会的な規範意識（価値観・倫理観）を育成する。	日頃からの注意喚起に加え、年間2回のコンプライアンス研修を実施する。	教職員からコンプライアンスに関わる苦情等の報告・相談件数（教職員数の1割に相当する8件以下を目標）	高	2024年度末	B	衛生委員会の主導により年2回の研修の実施ができた。コンプライアンスに関わる報告・相談の件数は7件でした。最善ではないが、達成度は高い。	どの案件も上司にあたる教員、先輩教員からの指示・指導が相手にとって辛く受け止められる場面がほとんどである。コンプライアンス研修と管理職との面談などで、意識向上を目指す。
組織運営	学校経営計画	教育理念・教育目標・教育方針を基に教育の質の向上を目標とする。	日頃からアクションプランを意識し、教育活動にあたよう管理・指導する。	学校自己評価のBランク以上に到達したアクションの割合（90%以上を目標）	中	2024年度末	C	30項目中25項目（83%）が評価B以上であった。達成することができなかった。	年度途中でのアクションプランへの意識啓発を行いきれず、目標や行動への意識が低くなったことが要因と考えられる。